

(様式1)

自 己 評 価 表

(愛媛県立東温高等学校)

学校番号(26)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
(1) 自ら学び、自ら考える力を養い、一人一人に確かな学力と生涯にわたって主体的に学ぶ態度を育成します。 (2) 規範意識に基づく生活習慣を確立させ、自他を認め、他を思いやる豊かな人間性を育成します。 (3) 広い視野に立って社会に貢献しようという意欲を持ち、夢や進路目標の実現にむかって努力する力を育成します。 (4) 学校行事やホームルーム活動等の自主的・主体的な活動を充実させ、協調性及び自ら考え行動する力を育成します。 (5) 部活動を奨励し、自己を磨き、充実感と達成感を味わわせ、たくましく生きる力を育成します。	【普通科】 (1) 多様な進路希望や適性に応じた学科・類型・コースの編成・充実を図り、特色ある教育課程を実践します。 (2) ICT機器・一人一台端末を積極的に活用した学習活動を充実させ、個に応じた学習習慣の確立を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを追求します。 (3) 視野を広げ、地域社会に貢献しようとする意欲や豊かな人間性をはぐくむため、地域社会と連携した体験的活動、課題解決学習を実施します。 【商業科】 (1) ICT機器・一人一台端末を積極的に活用した学習活動を充実させ、個に応じた学習習慣の確立を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを追求します。 (2) 体験を通して実学を学び、様々な資格を取得して、進路実現を目指します。 (3) 企業見学や販売実習を通じて職業観・勤労観を養うとともに、ビジネス実習における販売活動を通じて、商品流通に関する実践力を養い、地域社会の発展に貢献する人材を育成します。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
ンエグ シ・イラ ーポシデ リョウ	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	B	教職員対象のアンケートに対して、77%が肯定的な評価をしているが、19%が「どちらとも言えない」、2%が「あまり成長していない」という否定的な評価をしている。	自ら学び、考える力の育成、他を思いやる豊かな人間性の育成などにより、グラデュエーション・ポリシーを意識した生徒の成長を促す。
学校全般	学 校 生 活 へ の 支 援	全ての生徒が楽しく有意義な学校生活を送っていると実感できるよう、あらゆる教育活動できめ細かな支援に努める。	B	学校の全ての生徒が活気ある充実した学校生活を送れるよう、様々な教育活動において支援を行った。	様々な困難を抱えて学校生活を送っている生徒が毎年多数在籍している。教職員間で共通理解を図り、生徒一人一人に応じた支援体制を更に充実させていく。
	教 育 課 程 の 編 成	生徒の多様な進路希望に応じた教育課程について検討を重ねるとともに、学習指導要領の趣旨をふまえた、より効果的な教育課程の編成に努める。	A	新教育課程を生徒の実態に合ったものにしていくための検討や改善を重ね定着させることができてきた。新教育課程の趣旨をふまえた、多様な進路希望に対応した編成をすることができている。	新教育課程について、これまでの実践をふまえて、改善すべき点を明確にし、より生徒の実態に即した教育課程となるよう、検討を重ねていく。
学習指導	教 科 指 導 の 充 実	授業を重視した学習習慣を確立させるとともに、全ての生徒にとって、「わかる授業」を推進し、生徒の授業満足度100%を目指す。(A: 95%以上 B: 90~94% C: 85~89% D: 80~84% E: 79%以下)	B	生徒による学校評価アンケートの学習指導に関する5項目の平均が前年度(95.4%)から今年度(96.1%)と上昇しているが、授業を重視した学習習慣の確立には至っていない。	予習や復習を重視した授業を行い、生徒の学習習慣の改善を図ることで「わかる授業」を推進していくとともに、学習成果を実感できるような評価の在り方を工夫し、生徒の自己肯定感を高めていく。
		家庭学習時間の確保や授業改善を目的としてICT活用を推進し、オンライン学習ツール活用率100%を目指し、授業と家庭学習の連携と充実を図る。(A: 99%以上 B: 97~98% C: 95~96% D: 93~94% E: 92%以下)	C	オンライン学習ツールを活用した課題配信を行っているが、生徒の自己評価に十分に反映されておらず、類型等によって活用状況に差がある。家庭学習時間の増加にもつながっていない。	生徒一人一人に、授業と家庭学習との連携を意識させるために、より効果的なオンライン学習ツールの活用の仕方を検討していく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	進 学 指 導 の 充 実	基礎学力を定着させるとともに、各類型・コースの特性を生かし、自己の在り方や生き方を考えた高い目標を設定させ、自己実現に向けて粘り強く挑戦させる。	B	大学入学共通テストを受験した人文・理数類型の62名の生徒に対し、学力のさらなる高みを目指すよう支援した。その他の類型・商業科では、12月末時点で進学希望者の98%が進学先を決定している。	低学年における進路指導をより充実させ、早期から生徒に高い目標を持たせ、オンライン学習ツールの進路研究コンテンツを活用し、各類型・コースに合った質の高い指導を行っていく。
	就 職 指 導 の 充 実	就職に必要な学力や人間性を養わせ、インターンシップや企業見学などへの積極的な参加を通して正しい職業観を身に付けさせるとともに、地域や社会に貢献できる人材を育成する。	A	企業見学を奨励し、早い段階から履歴書の作成や面接指導に関する支援を行った結果、9月末で内定率が90%、12月末時点では98%となっている。	低学年次から確かな職業観を持たせ、望ましい生活習慣の育成と学力の向上につなげる。また、オンラインツール等を利用して生徒への情報提供を迅速に行い、主体的・積極的な就職活動をサポートする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底、SNS利用時のモラルの遵守、交通安全教育の推進について、継続的に粘り強く指導し加害者0を目指す。 (A：0件 B：1件 C：2～4件 D：5～7件 E：8件以上)	B	挨拶はよくできており、来校者からも好印象を持ったとのコメントを多数いただいている。交通事故の件数は、依然として多いのが現状であり、大きな事故に繋がる恐れが懸念される。加害者になっているケースはないが、粘り強く交通安全の意識向上に努めていきたい。	交通委員会と連携し、SHRでの呼びかけ等を生徒主体の取組として改善していく。併せて、登下校指導や交通安全講習会などの教育活動を通して交通安全における意識向上に努める。
	生 徒 理 解 へ の 取 組	定期的に個人面談を実施し、生徒理解に努め、学年等での共通理解を図る。また、欠席が気になる生徒にはその都度、臨時家庭訪問を実施し、家庭との連絡を密にする。	A	面談や相談等で得られたことを、学年会やケース会議などを通して、生徒理解や情報共有を行っている。内容によっての共有範囲の設定が課題である。	担任を中心に、生徒や家庭とのコミュニケーションはよく取れている。今後も継続して生徒理解に努める。
特別活動	学 校 行 事 の 充 実	従来の内容や在り方に固執するのではなく、伝統を踏襲しつつ、新しいものを取り入れていく。また、生徒会執行部を軸とし、生徒自らが企画・運営・参画できる学校行事が行われるよう支援していく。	A	元来本校生徒の学校行事に対する意欲関心度は高いものがあり、それを伸び伸びとした形で引き出すことができた。その要因は生徒会執行部の主体的な活動等であると考慮する。	伝統を重んじながらも時代の変化に応じた学校行事の在り方と内容を検討していく。生徒からの意見等を取り入れ、本校独自の学校行事を実施しする。
	部 活 動 の 充 実	本校の現状を加味しながら、部活動改革を進めるとともに、生徒自らが主体的に活動できる機会を増やし、高い目標を目指すことのできる生徒の育成と人格の形成を図る。	B	部活動の精選は進めてはいるものの、各顧問の負担は非常に大きいと考えられる。その状況下で生徒の積極的かつ主体的な活動で好成绩を挙げる部もある。	部が新設されるが働き方改革の流れに逆行することなく、生徒と顧問が一体となった活動を展開し目標を達成することで、さらなる成長を図る。
人権教育	人 権 ・ 同 和 教 育 の 充 実	人権・同和教育を推進して人権尊重の心を育み、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図っていくための実践力も養わせる。また、いじめ防止に努めるとともに、いじめの早期発見・早期対応にも努める。	B	人権・同和教育ホームルーム活動をはじめとして、「人権を考える日」「人権だより」の実施や、人権標語・ポスターの作成を通じて、人権意識が向上し、差別を許さない行動力を育成できた。学校が認知したいじめについては、早期に対応し、解消への対応ができていく。	いじめを防止するため、よりよい仲間づくりを人権・同和教育ホームルーム活動やその他の活動の中で実施し、いじめや差別を許さない意識と行動力をさらに高めていく。
道徳教育	道 徳 教 育 の 充 実	自律した個人として、また、社会の形成者として、必要な道徳的価値観を身に付け、有意義な人生を送れるように生徒の育成を図っていく。	B	昨年に引き続き、社会のルールやマナーを守ろうとする生徒の意識の向上に努めた。言葉の選び方などのコミュニケーション能力をさらに高めていく必要がある場面も見受けられた。	生徒の道徳観念をさらに涵養するとともに、相手のことを考慮した言動が十分できるように、人道的な行動力の育成を目指す。
安全教育	安 全 教 育 の 充 実	安全に関する意識を高め、災害や事故等に遭った際に適切に対応する知識と能力を身に付けさせるとともに、学校や地域社会に貢献できる実践力を養わせる。	B	避難訓練後の講評等、生徒の安全意識を向上させる取組を行った。また、危険を及ぼす可能性のある特定外来生物の連絡や火災予防週間の案内など、適宜生徒に安全意識を高める啓発を行った。	シェイクアウト愛媛（地震対応訓練）で生徒に周知なしでの訓練を実施した。今後も実際の災害時に役立つよう、さらに改善を行う。
業務改善	適 切 な 勤 務 時 間	教職員の勤務時間の遵守、休憩時間の確保に向けて、業務の更なる効率化及び時間の有効活用を図る。	A	グループウェアの機能を活用した情報共有や、会議や研修に要する時間の短縮に努めた。また、教育業務支援員の活用等により、教職員の勤務時間外在校時間が、昨年度より約8%減少した。	毎月設けているノー残業デーについて、全員が実施できるよう雰囲気作りに努め、ワーク・ライフ・バランスの実現のための気運を高める。
	職 場 環 境 の 整 備	毎月、衛生委員会を実施して、環境改善と教職員の健康増進に努める。また、健康講座や健康相談を定期的に実施することで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	毎月実施する衛生委員会において、教職員の心身の状況等について情報共有を行うことで、メンタルヘルスの観点からの支援について検討を行うことができた。また、管理医が健康診断を確認して抽出した人と希望者に、管理医による個別健康相談を行った。	校内に設置している休息室等の活用を呼び掛けるなど、今ある資源を有効活用した勤務中のメンタルヘルスへの配慮や、ノー残業デーの活用による定時退勤の意識を高める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。